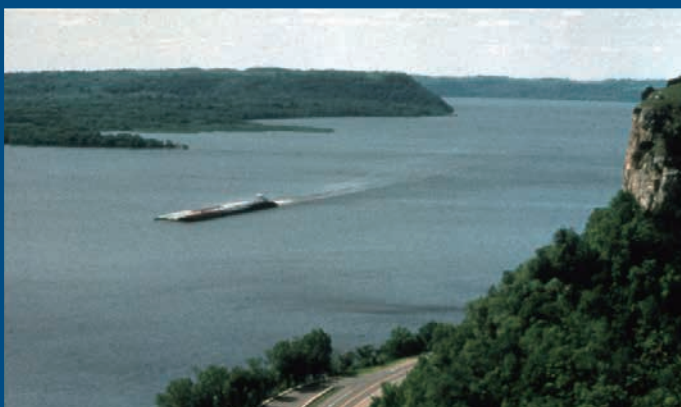
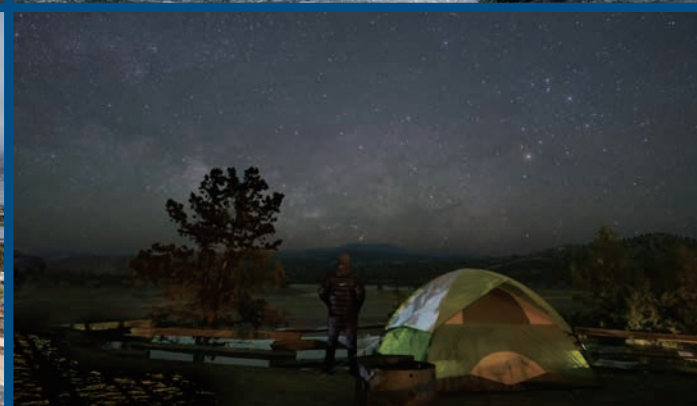
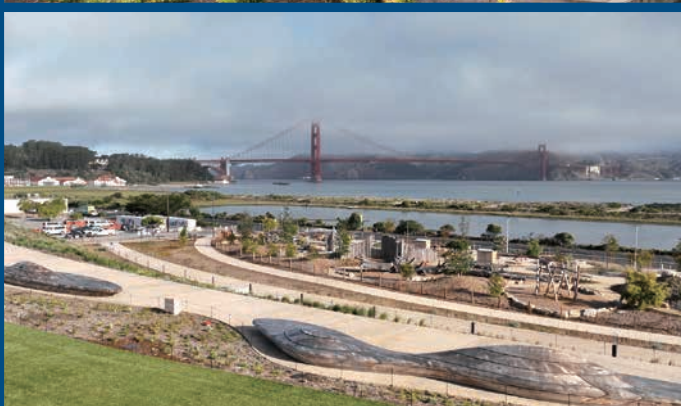


www.jwing.net
mail@jwing.net



アメリカ特集2022

USA Go USA .jp



旅行会社との共同販促に注力 ロングホールで 「先頭に立つ」アメリカに ブランドUSA



アメリカの観光プロモーション組織「ブランドUSA」は、海外旅行の本格的な復活、再開へ向け、旅行会社との共同販促など、アメリカ旅行の需要拡大に向けたBtoBのアプローチを強化していく。目指すはロングホール市場においてアメリカが「先頭に立つ」ことだ。日本事務所代表の早瀬陽一氏、旅行業界担当ディレクターの高久渉氏に話を伺った。



左からブランドUSA早瀬陽一日本事務所代表、高久渉旅行業界担当ディレクター

この2年間はウェビナーの開催や オンライン・プラットフォームを提供

ブランドUSAの運営は、アメリカ入国の際に必要なESTAの手数料で成り立っている。そのため、コロナ禍で海外旅行がほぼストップし、訪米者が減少すれば、その分ESTAの手数料も減少する。早瀬氏は「この2年間は国際マーケット向けの予算が限られており、できる活動が少なかった」と振り返る。

この間、ブランドUSAでは、日本旅行業協会(JATA)のアウトバウンド促進協議会(JOTC)主催によるウェビナーに参画したり、また独自でもウェビナーを開催したり、さらに新たな取り組みとしてオンライン・プラットフォーム「グローバル・マーケット・プレイス」を提供、「コミュニケーションを絶やさないように努めてきた」という。

グローバル・マーケット・プレイスでは、オンライン上の「トラベルトレードショー」とし



グローバル・マーケット・プレイス(イメージ)
brandusaglobalmarketplace.com

て、アメリカ各地の観光局やサプライヤーの担当者にアクセス、情報を得ることができる。一方、アメリカ側のサプライヤーも日本をはじめとする各マーケットの状況を知ることが可能で、いわば「日本とアメリカの業者間をつなぐ」役割を果たす。今後もこのグローバル・マーケット・プレイスは継続していく意向だ。

2億5000万ドルの予算投入 日本マーケットは増額、期待の表れ

今後の国際マーケットの復活、再開をにらみ、アメリカ政府はブランドUSAに対して新たに2億5000万ドルを予算に計上、2021年度(2021年10月～2022年9月)から適用し、2022年度(2022年10月～2023年9月)は最も多く配分される見通しだ。

早瀬氏は「これによりブランドUSAの予算はかなり戻ってくる」と説明。なかで

も日本マーケットに対しては、「2022年度は、コロナ前の2019年度よりも多い。今年の10月以降は、積極的に動いていきたい」とのこと。

予算の増額はその分、日本マーケットへの期待の高さとも言える。「現地サイドでは、マーケットが必ず戻るという自信がある。コロナ前よりも予算増となった日本マーケットへの期待は高い」と指摘する。

3年ぶりにツーリズムEXPOに出展 11団体が参加、ブランドUSA担当者が来日

予算増を受け、今後の具体的な活動については、まず9月のツーリズムEXPOジャパンに「ブランドUSAパビリオン」として3年ぶりに出展。現在、州などの観光局やサプライヤー、ESTA事務局など、11団体が出展する予定だ。

出展について、早瀬氏は「今年から来

年にかけての海外旅行の復活という状況において、今年のツーリズムEXPOへの出展はシンボリックな意味がある」と述べ、その重要性を強調する。今回はブランドUSAのワシントンDC本局担当者も来日する予定という。

共同販促でアメリカ本土への需要を喚起 費用対効果を重視、然るべきタイミングで

また夏から新たな年度となる10月以降、旅行会社との共同販促も今後本格化させていく。特にアメリカ本土への需要を喚起していく考えで、「流通の変化に合わせ、送客を期待できるパートナーと、できるだけ高い費用対効果が出る形

で共同プロモーションを行っていきたい」(早瀬氏)と意欲を見せる。

実施するタイミングについても、航空便の回復状況、またロングホール市場の復活状況を見極めながら実施したいとしている。

対面セミナー、ウェビナーも 来年7月にはセールスミッション予定

対面によるセミナー、またはウェビナーも実施する。対面については航空会社と共同で予定。またウェビナーについては、JOTC主催のウェビナーに参加するほか、独自に「ゲートウェイ・ウェビナー」を8月末から6回に分けて実施する。

ウェビナーについて、高久氏は「まずは日本からの直行便が飛ぶゲートウェイ都市に焦点を当てた内容とした。原点に

立ち返り、改めてゲートウェイ都市の魅力を訴求したい」と説明。

ウェビナーでは、1回あたり3つの観光局が参加する予定。需要の戻りが早いゲートウェイ都市を対象を絞ることで、需要を積み上げていく意向。また来年7月にはセールスミッションを計画。アメリカ各地の観光局、サプライヤーからの参加を募る。

IMAX新作「Into Nature's WILD」 大自然にフォーカス、来春公開予定

一方、新しいIMAX®シアター向け映画の日本公開を来春に予定する。「Into Nature's WILD (邦題未定)」は、2016年に日本公開した「アメリカ・ワイルド」、また2018年に日本公開した「アメリカン・ミュージック・ジャーニー」に続く第3弾。今回の作品は広い意味でのアメリカの大自然にフォーカスした内容だ。

映画「Into Nature's WILD」について、早瀬氏は「ポストコロナで何を求めているか。サステイナブルや混雑を

避けた旅行などを意識している」と紹介。なお、ツーリズムEXPOの期間中、旅行業界関係者を集めた上映イベントも予定している。



まずはリピーターなど、潜在性の高い層から 周遊旅行の販促も準備

今後の需要見通しについて、早瀬氏は「コロナ禍で溜まっていた“旅行に行きたい”という需要をまずはしっかりと獲っていききたい」と語る。

具体的には、円安や燃油サーチャージの高騰など、海外旅行へのハードルが高いなかでも旅行に行きたい層、例えばリピーターや富裕層など、まず来年初頭までの初期の段階として、「旅行する潜在性が高い層、結果が出やすい層」へのアプローチが重要との判断だ。

旅行スタイルについても、まずは「行きやすい1都市滞在」が主流との見通しを示す。「本来であれば、ブランドUSAはゲートウェイ都市の先のアメリカを宣伝する役割を担っているが、現状はまだまだ難しい」と指摘。

そのため現状としては、オンライン・プラ



「ビジットUSA トラベルトレードウェブサイト」
traveltrade.gousa.jp

ットフォーム「グローバル・マーケット・プレイス」や、業界向けウェブサイト「ビジットUSA トラベルトレードウェブサイト」にある旅行プランナーといったツールによるオンラインサポートを通じ、「市場が本格的に回復した際にしっかりと取り組んでもらえるようにしたい」とする。

ロングホールの先導的立場に まずは土台作り、「売りやすい」アメリカに

目指すのは、今後本格的にロングホール市場の需要が回復した段階で、アメリカが「ロングホール市場の先頭に立ち、先導的な立場を担う」こと。その意味でも、リピーターや富裕層など、旅行をする潜在性の高い層の需要を積み上げ、「土

台を作ることが重要」とのスタンスを示す。

早瀬氏は「アメリカは売りやすくて、親和性も高い。またチャンスも大きい」とアピール、旅行会社との共同販促をはじめ、さまざまな施策を通じ、積極的なBtoBサポートに専念していく意向だ。

「アメリカ好き」を増やす取り組みに注力 Visit USA Committee Japan

アメリカへの旅行促進、また販売を行う団体や企業で組織する「Visit USA Committee Japan」。今後の海外旅行の本格的な再開、復活に合わせ、業界内における「アメリカ好き」を増やしていくことで、アメリカ旅行商品の拡販を目指していく。会長の高橋光徳氏(ユナイテッド航空)、副会長の奥健氏(地球の歩き方)に、具体的な取り組みや今後の展開について話を伺った。



左からVisit USA Committee Japan高橋光徳会長、同奥健副会長

「USTP10」企画造成担当者がインフルエンサーにfacebookやニュースレターで情報発信

Visit USA Committee Japanは、アメリカ関連の観光局や旅行会社、ホテル、航空会社、アトラクション、レンタカーなど現在約40団体、企業が加盟。「多岐にわたりアメリカを販促する団体」(高橋氏)として、BtoBメインに活動を行う。

そのひとつが、2013年よりスタートした「USTP10」という取り組み。アメリカ旅行商品に携わる旅行会社の企画造成責任者や担当者を10名任命し、「インフルエン

サーとなってアメリカの良さを広げてもらう」というもの。現在、活動は一時ストップしているが、今後は再開へ向け準備を進めていく。

コロナ禍においても「アメリカのファン」づくりに力を入れてきた。2021年5月には「アメリカ大好きグループ」としてfacebookを開発。また月1〜2回のニュースレターを配信、登録者数は2500名にのぼる。



Team Travel America - Japan アメリカ大好き
www.facebook.com/groups/754324468572005

ニュースレター登録ウェブサイト

<https://forms.gle/ADccdFQD1NAHmUvn6>



2025年訪米者500万人目標 需要回復して「来るべき時」に達成へ

コロナ前の2019年6月に、カリフォルニア州のアナハイムで開催されたアメリカのトラベルトレードショー「IPW」の場において、日米の観光関連トップが集まり開催された「日米観光合同ミーティング」。ここでは、2025年での訪米者500万人達成という将来的な目標が示された。

2019年の日本からアメリカへの訪問者数は、375万人。高橋氏は「本来であれば、2020年の羽田空港における国

際線発着枠の拡大や、東京オリンピック／パラリンピックによる双方向交流の拡大で夢ではない数字だった」と語る。

結果として新型コロナウイルスにより海外旅行がほぼストップ。現在、少しずつ復活、再開するなか、目標達成は厳しい状況となってしまったが、高橋氏は「しっかりと旅行需要を取り戻せば、来るべき時に目標を目指せるのではないかと」前向きだ。

日本のプレゼンスの低さに危機感 コロナからの回復も「周回遅れ」

前向きな姿勢を見せる一方で、懸念事項もある。アメリカにおける日本のプレゼンスの低下だ。高橋氏は「アメリカのサプライヤーにとって日本は成熟したマーケットという認識。とても重要なマーケットであるという位置づけだが、IPWで日本からの参加者が少なくなり、日本のプレゼンスが小さくなっている」と指摘する。

(表1)での中国、韓国との比較においても、日本は2019年で375万人がアメリカへ訪問、国別では4位、消費額では6位だが、2013年比では訪問者数はわずかに減少。対して中国は150%、韓国は159%と勢いがある。消費額については中国が国別で1位とトップ。訪問者数では5位、韓国は6位と、日本に次ぐ位置にある。

また、コロナからの回復においても「日本

表1

2019年統計	日本	中国	韓国
訪問者数 対2013年	375万人(4位) 96.5%	283万人(5位) 150%	230万人(6位) 159%
消費額	\$16.0 Billion(6位)	\$33.5 Billion(1位)	\$9.6 Billion(8位)
シェア			
ハワイ	45%	6%	13%
グアム	19%	0%	42%
カリフォルニア	15%	37%	21%
ニューヨーク	7%	26%	11%
その他	13%	31%	13%

Source: Brand USA, Department of Commerce, National Travel and Tourism Office

は周回遅れの状況」だという。「既に現地では、ヨーロッパや中南米からの観光客でいっぱい。コロナ前よりも伸びているマーケットもある。日本が目立たなくなるのではないかと、という危機を感じている」と語る。

こうした状況を受け、「早期に日本政府が入国制限をさらに緩和し、日米間の往来が戻るよう関連団体とともに働きかけをしていきたい。そして、潮目が変わった段階ですぐにスタートできる態勢づくりに努めたい」という。

ブランドUSAとの共催で東名阪セミナー アメリカ全体への旅行促進に注力

今後はブランドUSAと共同で、東名阪においてセミナーを開催する予定で、「日本全国へ向けたアメリカのファン拡大」(高橋氏)を目指す。その中で高橋氏が注力したいのが「アメリカ全体」の販促だ。

2019年の日本からアメリカへの渡航者数は375万人で、目的地別で見るとハワイが全体の46%、グアムが19%で、2つで全体の2/3を占める。残り1/3がアメリカ本土への渡航者となるが、なかでもカリフォルニア州がアメリカ全体の15%、ニューヨーク州が7%で、両州でアメリカ本土への渡航者の2/3を占める(表1参照)。

高橋氏は「カリフォルニアやニューヨークは確かに売れ筋ではあるが、アメリカにはもっとたくさんの素材がある」と指摘。さらに「いかに業界パートナーの協力を得て訴求していくか。売れ筋はきちんと売りつ

つ、ポテンシャルの高いデスティネーションの販売を促進していきたい」と意欲を見せる。

またデジタル化が進むことで、これまで売れ筋中心だった紙のパンフレットから、「デジタルではより幅広くアメリカ商品を販売できるチャンスがある」という期待も。

さらに今後は羽田からのフライト再開も進む。アジア・北米間の乗り継ぎ需要の成田と比べ、日本発の需要が中心となる羽田。高橋氏は「利便性の高い羽田便の促進をはかり、関東圏以外の地域からのマーケット拡大に注力したい」と期待を寄せる。

高橋氏は、「我々はアメリカの売れる素材を提供するプロ集団。もっと我々のリソースを活用して頂きたい。積極的に利用して頂くことで、将来的に500万人の目標達成を目指していきたい」と呼びかけた。

週刊ウイングトラベル

アメリカ特集 2022

CONTENTS

page 2

ブランドUSA
Brand USA

3

Visit USA Committee Japan
Visit USA Committee Japan

4 5

デルタ航空
DELTA

6 7

ポストコロナ、
アフターコロナにふさわしい観光素材
Tourism Products Suitable for Post-/After-COVID-19

8

ルイジアナ州観光局
Louisiana Office of Tourism

9

ミシシッピ・リバー・カントリーUSA/
メンフィス市観光局

Mississippi River Country USA/Memphis Tourism

10

ディズニー・ディスティネーション・インターナショナル
Disney Destinations International

11 12

アメリカン航空/日本航空
American Airlines/Japan Airlines

羽田空港に「デルタスカイクラブ」開設

米国航空会社で唯一の自社ラウンジ

デルタ航空は、羽田空港第3ターミナルに新たに「デルタスカイクラブ」を開設した。米国航空会社で羽田空港に自社ラウンジを展開するのはデルタ航空だけ。またデルタ航空にとっても羽田空港の「デルタスカイクラブ」は、唯一の米国外のラウンジとなる。

羽田空港「デルタスカイクラブ」の紹介動画はこちら▶
またはここをクリック!



注目ポイント



① 富士山を一望できる広々とした空間

総座席数230席、延べ床面積867㎡と広々。さまざまなタイプのソファや椅子が置かれ、ゆったりとくつろげる。富士山やスカイツリーを一望できる眺望も自慢。

② 作りたての食事が味わえる

揚げたての「季節の野菜の天ぷら」など、新鮮な食材をレストラン並みの厨房で調理した料理やデザート、ビュッフェスタイルで提供。



③ 目の前で調理するヌードルバー

新たにヌードルバーを設置。注文を受けてからシェフが目の前でラーメンや坦々麺などの麺類を調理してくれる。



④ フルサービスのバーカウンター

バーテンダーが季節のオリジナルカクテルをその場で提供。ほかにも生ビールやワイン、日本酒などの飲み物が無料で楽しめる。



⑤ ワークブースでオンライン会議

ビジネス対応も万全。高速Wi-Fi完備、ワークブースでオンライン会議ができるほか、ほぼすべての座席に電源を備える。リフレッシュできるシャワールームも5室設置している。



東京発着のすべてのフライトを 利便性の高い羽田空港に集約

2020年春より、東京ーアメリカ間のすべてのフライトを成田から羽田発着に切り替えたデルタ航空。今後、需要動向に合わせ、順次フライトを増やし、これまで以上に利便性の高いネットワークを提供していく。



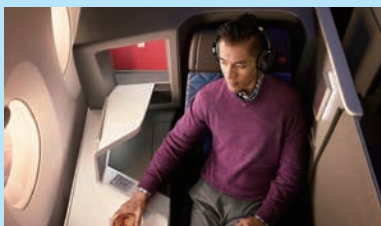
名古屋(セントレア)ーデトロイト線 10月30日より週3便に増便

現在、週1便の名古屋(セントレア)ーデトロイト線は、今後のビジネス需要を踏まえ、冬期スケジュールがスタートする10月30日から週3便に増便する予定だ。デトロイトからレキシントン、インディアナポリス、ノックスビル、ハンツビルなどの主なビジネス拠点に便利な乗り継ぎを提供する。



質の高いサービスを提供 デルタ航空の4つのプロダクト

デルタ・ワン スイート (ビジネスクラス)

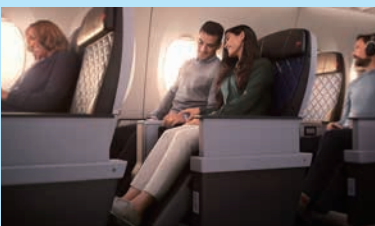


全席通路にアクセス、個室スタイルでプライベートな空間、フルフラットベッドで快適

スライド式のドアを開めれば、完全な個室空間に。18インチモニターやノイズキャンセリング付きヘッドホン、高性能なUSBポートを搭載。また環境に配慮したアメニティキットや寝具も採用、快適さはもちろん、上質な空間が自慢だ。

*羽田ーホノルル線、名古屋ーデトロイト線は、デルタ・ワンでの提供となります。

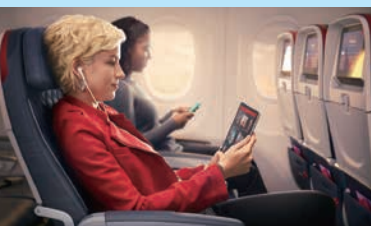
デルタ・プレミアムセレクト (プレミアムエコノミークラス)



広いスペースに深いリクライニングとフットレスト、優先サービスが充実

シートピッチ 最大38インチ(約96.5cm)の広いスペース。可動式レッグレストとフットレストを備え、チェックインや搭乗、保安検査場(一部空港)、手荷物取り扱いなど、「スカイプライオリティ」の各種優先サービスを受けることができる。

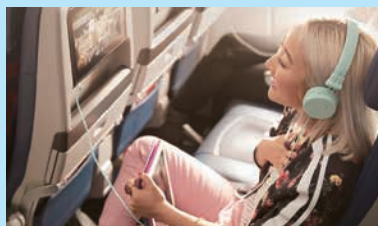
デルタ・コンフォートプラス (エコノミークラス)



優先搭乗、広い足元、専用頭上荷物スペースなど、ワンランク上のエコノミークラス

メインキャビン前方に配置。メインキャビンと比べ、最大4インチ(10cm強)広いレッグルームに加え、頭上には専用の収納棚を用意。機内への優先搭乗など、ワンランク上のプロダクトを提供する。

メインキャビン (エコノミークラス)



機内を快適に、食後のお楽しみも、デルタ航空の「上質なスタンダード」を体感

機内用スリッパやトラベルキットを用意するほか、スパークリングワイン、食後にハーゲンダッツのアイスクリームやスターバックスのコーヒーをサービスするなど、デルタ航空の「上質なスタンダード」を体験できる。

よりプレミアムな体験を。

可動式レッグレストや大型スクリーンを備えたお座席と本格的なお食事。
デルタ航空のプレミアムエコノミー「デルタ・プレミアムセレクト」

デルタ航空はプロサーファー 五十嵐カノア選手をサポートしています。

KEEP CLIMBING



DELTA

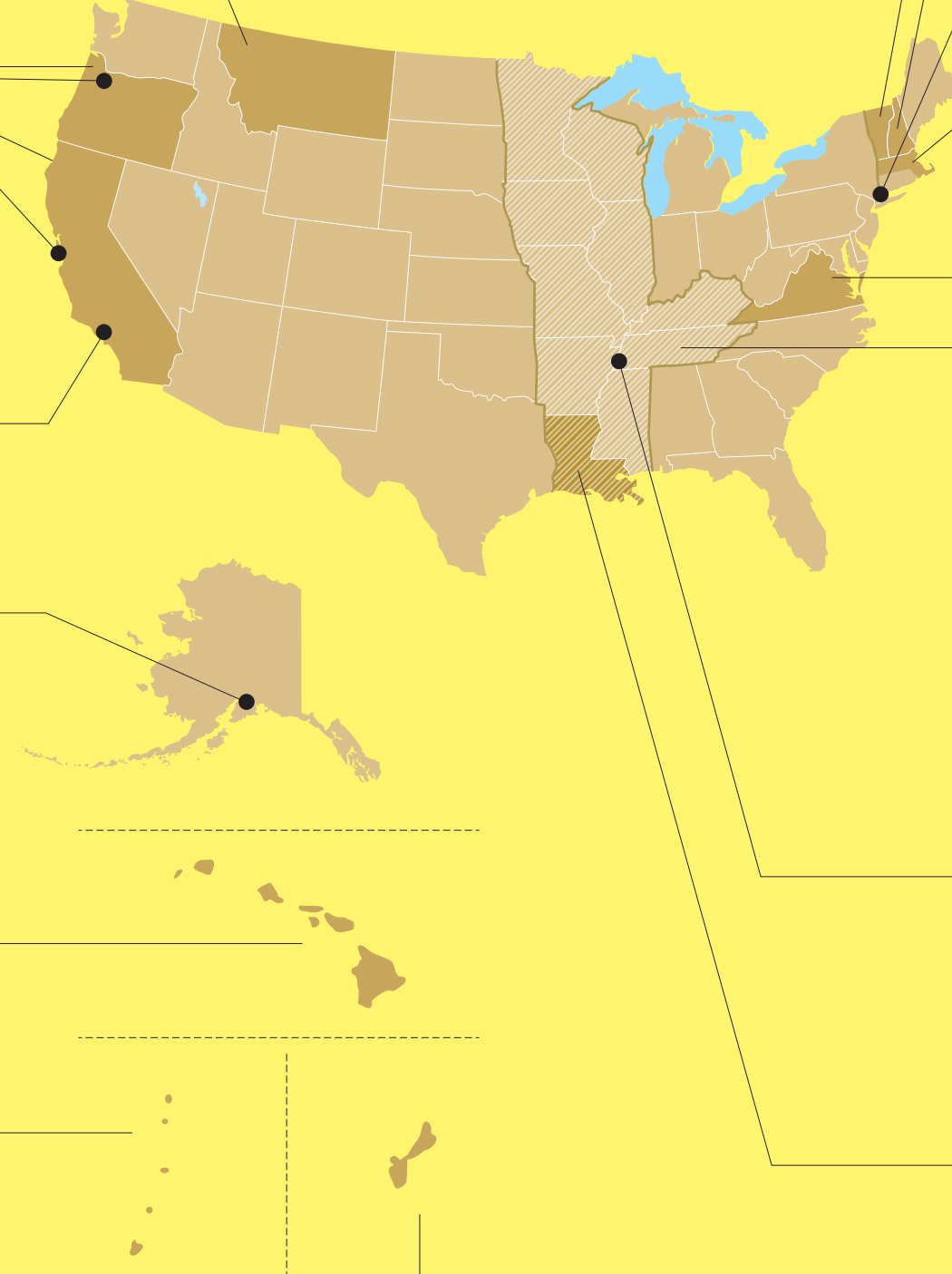


観光局に
聞いた

アフターコロナ、 ポストコロナに ふさわしい観光素材



コロナ禍を経て、再び海外旅行ができるようになった今、
新しい旅のスタイルが求められている。
ここでは、アメリカ各地の観光局からアフターコロナ、
ポストコロナにふさわしい観光素材を推薦して頂いた。



www.gousa.jp/state/oregon

オレゴン州観光局

ダークスカイ(星空観測)



▶ traveloregon.com/plan-your-trip/destinations/lakes-reservoirs/oregons-pristine-starry-skies

オレゴン州には光害の影響を受けていない、暗く美しい夜空(ダークスカイ)が広がる。この自然本来の美しい夜空を見上げながら、星空観測を楽しんでみてはいかが? 澄み切った夜空で、天の川や流れ星をぜひ見つけてみて。

www.bigskyjapan.com

モンタナ州政府駐日代表事務所

ラフティング(Glacier Guides and Montana Raft Company)



▶ glacierguides.com/raft

ミドルフォークでは、ホワイト・ウォーター、フラット・ウォーター両方のラフティングを楽しむことができ、グレーシャー国立公園近くの景色を楽しめる。日帰りで1泊2日、プライベートツアーまでさまざまなプランを提供。

www.VermontVacation.com

バーモント州政府観光局

アメリカで一番癒されるストレスフリーの州



グリーンマウンテンの州と呼ばれ、手つかずの自然とオーガニックな食が豊富、特にメープルシロップは全米一の生産、楓の木が多く秋には燃えるような色彩の紅葉、四季折々の景色を堪能できる。

www.VisitNH.gov

ニューハンプシャー州政府観光局

自然の美しさを堪能



ホワイトマウンテンショナルパークは広大な自然の景観が美しく、なかでも圧巻の紅葉期のドライブ、世界一古い登山列車はおすすめ。また多くの湖があり、動物や自然の環境を保護している。州税が無いため、ショッピングもお得。

www.travelportland.com/ja/

ポートランド観光協会

フードカート



▶ www.travelportland.com/ja/portland-food-carts/

ポートランドのグルメシーンで欠かせない「フードカート」。街中に何百もあるこのカートは、移動式のフードトラックとは異なり、「ポッド」と呼ばれる専用の場所に集まる。地元の人と交流しながら、開放的な屋外席で世界の料理を楽しみたい。

www.visitcalifornia.com/jp

カリフォルニア観光局

サスティナブルなソノマを体験



Photo courtesy of Sonoma County Tourism

サスティナブルの先端に行くソノマのワイン、食、宿泊施設を体験。加えて、レッドウッドの森をトレッキング、海岸線やブドウ畑を眺めながら乗馬やサイクリング、湖や川でのカヤック、夜には星空鑑賞など、自然の中でアクティビティを満喫。

jp.sftravel.com/

サンフランシスコ観光協会 / サンフランシスコ国際空港

新しい都会のアアシ「プレシディオ・トンネル・トップス」



▶ www.presidiotunneltops.gov/

20年もの構想を経て、今年7月17日、新しい国立公園がオープン。ゴールデンゲートブリッジを望む広大な敷地で、アウトドアアクティビティやフードトラックの食事を楽しめる新スポット。

www.discoverlosangeles.com/jp

ロサンゼルス観光局

アカデミー映画博物館



▶ bit.ly/Academyjp

2021年9月にオープン。映画制作の芸術と科学をテーマにしたアメリカ最大の博物館。1300万点を超える映画にまつわるコレクションやさまざまな企画展に加え、オスカー受賞体験など、映画の都に相応しい今ロサンゼルスで最も注目のスポット。

www.mrcusa.jp

ミシシッピ・リバー・カントリーUSA

ミシシッピ川沿いを堪能する!「景観の良い観光地」



川沿いを走るグレート・リバー・ロードは、「オール・アメリカン・ロード」のひとつ。徒歩で渡れる橋、アメリカ開拓時代の歴史継承地、雄大な川を一望できるタワー、まるでテーマパークのような広場など、インスタ映えするスポットがたくさん!

▶ experiencemississippiriver.com/scenic-spots-on-the-great-river-road/

www.virginia.org

バージニア観光局

豊かな歴史と美しい街並みが魅力の小都市、アレクサンドリア



全米で人気の小都市トップ3にランクイン、石畳の道やレンガ造りの家屋が残る旧市街、ポトマック川に面したウォーターフロントエリアの散策がおすすめ。メトロで川を越えれば首都ワシントンDCで、観光面、利便性に優れたデスティネーション。

▶ visitalexandria.com

www.anchorage.net

アンカレッジ観光局

トニーノウルズ沿岸トレイル



▶ www.anchorage.net/trail/tony-knowles-coastal-trail/626059264994ee593d44470e/

キンケイドパークまで続く全長18キロのトレイル。夏はジョギングやハイキング、サイクリング、冬はクロスカンтриー、フットタイヤバイク等が楽しめる。清々しい景色と野生動物との遭遇も期待できる。ソーシャルディスタンスもばっちり。

www.allhawaii.jp

ハワイ州観光局

ハワイ火山国立公園(ハワイ島)



▶ www.nps.gov/havo/index.htm

世界で最も活発な活火山のひとつ、キラウエア火山を有する世界自然遺産。ハワイ島には世界にある17の気候区分のうち10があるとされ、地球の息吹や自然の雄大さを体験できる。マラマ(思いやり)の心でさらに深い体験をしてほしい。

<https://www.memphistravel.com/japanese>

メンフィス市観光局

メンフィス・ボタニックガーデン



▶ membg.org/alice/

スペシャル企画「不思議の国のアリス・アット・ザ・ガーデン」は、植物でアリスの世界を再現(10月末まで)。迷路など、ファミリー向けのアトラクションも。毎週木曜はトワイライト・サードデーとして夜8時まで営業。軽食やカクテルも楽しめる。

www.louisianatravel.com

ルイジアナ州観光局

ニューオリンズのグルメ体験は ホテルのレストランを活用しよう!



ルイジアナ州は、独自の食文化を持つことから美食の観光も注目されている。なかでもおすすめは、ニューオリンズの有名老舗レストランに加え、ホテル併設の人気レストランやバー、ウェブサイトをチェックして好みのレストランで舌鼓。

▶ www.neworleans.com/blog/post/top-hotel-restaurants-in-new-orleans

japan.mymarianas.com

マリアナ政府観光局

“マリアナケーション マリアナ休み、とろう。” 特典満載のキャンペーン

サイパン直行便の就航を受け、365日常夏の楽園サイパン、デニアン、ロタでの「Marianas x Vacation」マリアナケーションを提唱。\$50クーポン、ゴルフやダイビングが無料で楽しめる特典など、超お得な特典満載! ▶ japan.mymarianas.com/marianacation



www.visitguam.jp

グアム政府観光局

年末まで延長!「GoGo!GUAMキャンペーン」



▶ 55guam.jp

今年は日本ーグアム間の航空便就航55周年。「55」にちなんだ期間限定の旅行プランのほか、現地の人気レストラン、ホテル、アクティビティスポットなど、いろいろな場所で特別なサービスやお得な特典が受けられる。

WING Travel
Weekly
“USA Special 2022”

グルメ、歴史、自然 ユニークな魅力がいっぱい ルイジアナ州

アメリカ南部、メキシコ湾に面したルイジアナ州は、スペインやフランス、アフリカ、さらにネイティブアメリカンの影響が入り交じった独自の文化を体験できる。特に食や音楽など、ここだけのユニークな魅力があり、歴史遺産も数多い。またミシシッピ川がメキシコ湾に流れるエリアは広大な湿地帯として、豊かな自然が広がっている。



www.louisianatravel.com



©Jeff Anding

音楽とグルメの町、ニューオリンズ

Gourmet

食のシーンが多彩なニューオリンズ 本場のジャズの生演奏を聴きながら舌鼓

ルイジアナ州と言えば、ケイジャン料理、クレオール料理の本場。同州の旅の拠点となるニューオリンズには、約1400軒ものレストランがあり、本場の美味しい料理が味わえる。

ケイジャン料理は、カナダにやってきたフランス人入植者「アカディアン」がこの地に移住してもたらした料理。一方、クレオール料理は、ヨーロッパ系やアフリカ系移民、ネイティブアメリカンなど、さまざまな食文化が混ざり合って生まれた料理。お米を使ったり、シーフードを使ったり、どちらも日本人になじみやすい料理だ。



ケイジャン料理はスパイシーな「ジャンバラヤ」(写真)や「ガンボ」、ザリガニ料理が代表例



対照的にクレオール料理はルーを使って独自のソースで頂く洗練された「都会的な料理」

また、ニューオリンズは、ジャズをはじめとするアメリカ音楽の本場としても知られる。歴史的な建物が集まるフレンチクォーターのバーボンストリートには、バーやクラブ、ホールが軒を連ね、本場のジャズの生演奏に耳を傾けながら食を楽しむこともできる。



バーボンストリートでジャズの生演奏を聴く



ミシシッピ川のディナークルーズは雰囲気満点!



スイーツも絶品ぞろい
フレンチクォーターにある「カフェ・デュ・モンド」のベニエ(揚げドーナツの砂糖パウダーがけ)

ここも要チェック!

カクテル「サゼラック」の世界を知る 「サゼラックハウス」

ライ麦で作ったライウイスキーをベースとしたニューオリンズ生まれのカクテル「サゼラック」は、「世界最古のカクテル」とも言われ、古くから親しまれている。2021年にオープンした「サゼラックハウス」は、そんなサゼラックの歴史を知ることができる施設。試飲付きの無料ツアーや、有料のテイスティング、ショップも併設する。

www.sazerachouse.com



©NOCVB

辛党なら絶対行きたい タバスコ工場見学

日本でもおなじみの辛味調味料「タバスコ」。ニューオリンズの西、車で約2時間行ったエイブリー島が発祥の地として知られ、工場見学が可能。歴史や製造過程を知ることができるほか、ショップやレストランもある。グループの受付も可能。ちょっとしたニューオリンズ郊外の1日観光におすすめだ。

www.tabasco.com/visit-avery-island/tabasco-tour



History/Heritage

アメリカ南部の歴史を物語る 大農園の邸宅「プランテーションハウス」

ルイジアナ州でぜひ訪れたいのが、かつての大農園の邸宅「プランテーションハウス」。ミシシッピ川沿いに点在し、アメリカ南部の歴史を物語る重要な歴史的遺産として、観光客の人気を集めている。

もっとも有名で人気があるのは、ニューオリンズから車で1時間ほどのエリアにある「オークアレイ・プランテーション」。1830年代に建てられたプランテーションハウスで、現在は国家歴史建造物に指定されている。その名の通り、オーク(樫)の木の並木道が印象的だ。

oakalleyplantation.org



©Louisiana Office of Tourism

プランテーションハウスに滞在 ミュージアムで歴史文化を学ぶ

オークアレイ・プランテーションよりさらに川を上ったところにあるのが「houmashouse・プランテーション」。広大な敷地にはコテージがあり、宿泊が可能。館内ツアーで、プランテーションの歴史を学べるほか、レストラン棟での豪華な食事など、ラグジュアリーな滞在ができる。

houmashouse.com

隣接する場所には、「グレート・リバー・ロード・ミュージアム」が新たにオープン。先住民の時代から入植、砂糖産業の発展、南北戦争など、ミシシッピ川下流エリアの歴史や文化を、さまざまな展示から垣間見ることができる。

greatriverroadmuseum.org



Nature/Sustainability

沼地が点在する自然豊かな「スワンプ」での ドキドキワクワク体験!

ミシシッピ川がメキシコ湾に流れるエリアは、「ルイジアナスワンプ」と呼ばれる湿地帯が広がる。アチャファラヤ湿地として国家遺産地域に指定されており、数多くのバイユー(沼地)が点在。豊かな緑にワニや野鳥など、多彩な動植物が暮らす自然豊かなエリアだ。

人気なのがエアボートに乗るスワンプツアー。沼地に生息するワニを間近に見たり、高速で沼地を航行するエアボートに興奮したり、ドキドキワクワクな体験が待っている。

他にも、カヌーやサイクリング、バードウォッチング、キャンプなど、楽しみ方はいろいろ。広大な大自然の前に、自然の大切さについて見つめ直すことができるだろう。

www.atchafalaya.org



©Louisiana Office of Tourism



©Louisiana Office of Tourism



©Louisiana Office of Tourism

ワニの赤ちゃんを育てる施設で 環境の大切さを認識

ラファイエットの西、ジュニングスにある「ゲイター・シャトー」は、ワニ(アリゲーター)の保護施設。赤ちゃんワニを自然の生息地に戻すまでここで育てる。赤ちゃんワニは噛むことはないので、餌付けしたり、抱っこして写真を撮ったりすることが可能。ワニの生態や保護についてのレクチャーも受けられるので、環境保護への認識を深めることができる。教育旅行の学習素材としても最適だ。

jeffdavis.org/gator-chateau



古き良きアメリカの姿がここにある

ミシシッピ川沿いでここだけのラグジュアリー体験

アメリカを南北に流れるミシシッピ川。その兩岸の各州には豊かな自然が広がり、歴史や文化の面においても実に多彩な表情を見せてくれる。そこに広がるのは、まさに古き良きアメリカの世界。ミシシッピ川沿いでここだけのラグジュアリー体験を提案したい。



mrcusa.jp

@mrcusajapan

ミネソタ州

世界的に有名なブーツ
発祥の地レッドウィング



日本でも人気のレッドウィングのワークブーツ。ミネソタ州は衣類と靴に消費税はかからない。 redwing.org

ウィスコンシン州

豪華なゴルフリゾートで
癒しの時間



ミシガン湖沿いのコーラーには名門コースが集まる。ゴルフをしなくても5つ星リゾートでスパ体験やアウトドアが楽しめる。 www.destinationkohler.com

ルイジアナ州

豪華なプランテーション
ハウスに滞在



アメリカならではの農園の邸宅「プランテーションハウス」での滞在は忘れられない思い出となるはず。 houmashouse.com

ミシシッピ州

「花の都」ナッチェズの
ヒストリックハウスを訪ねる



19世紀に建てられた豪邸が立ち並ぶ。毎年春と秋に一般公開される「ナッチェズ・ビルグリメッジ」の時期に訪ねたい。 www.visitnatchez.org



イリノイ州

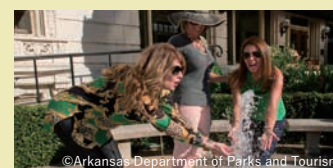
可愛い街並みが
フォトジェニック! ガリーナ



シカゴから車で約3時間。可愛い街並みをぶらぶら散歩。滞在はラグジュアリーなB&Bで。 www.greatriverroad-illinois.jp

アーカンソー州

温泉保養地
ホットスプリングスでのんびり

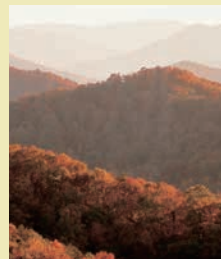


町はまるごと国立公園の中にある。歴史を感じさせるバスハウスも残り、のんびりと滞在できる。 www.arkansas.com/hot-springs-ar-things-do-events

テネシー州

グレート・スモキー
山脈で
リフレッシュ!

緑豊かなガトリンバークでハイキングやアウトドアを楽しみ、麓のビジョンフォージでゆったりと滞在。 gatlinburg.com mypigeonforge.com



ミシシッピ川を
クルーズで楽しむ
バイキング・
ミシシッピ号

1~2週間でミシシッピ川を航行、豪華客船でのクルーズ旅行が新たな魅力に加わった。ディナーと音楽を楽しむショートクルーズもおすすめ。 www.vikingrivercruises.com

エルビス・プレスリー ゆかりの地 メンフィス

アメリカのみならず世界中に多大な影響を与えたアーティスト、エルビス・プレスリー。彼の生涯を描いた映画「エルヴィス」が公開され、再び注目が集まっている。そんな彼が人生の大半を過ごしたのがテネシー州メンフィスだ。メンフィスでエルビス・プレスリーの軌跡をたどってみたい。



必ず訪れたい「グレイスランド」
エルビスの邸宅、偉業を知る展示がいっぱい

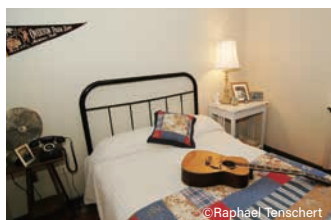
エルビスが住んだ邸宅「グレイスランド」は、彼にとってかけがえのない場所。家族や友人、知人たちが集まり、常に賑わっていたという。隣接するテーマパーク内の記念館には膨大な数の衣装や記念品など、彼の偉業を知ることができる。 www.graceland.com



母親にプレゼントしたピンクのキャデラックが展示されている自動車博物館もチェックしたい。

エルビスが住んでいた家に泊まれる!
ローダーデール・コート

グレイスランドの豪邸に引越す前に住んでいたローダーデール・コート。メンフィスのダウンタウンから約2kmのアップタウンにあり、今年から宿泊が可能となった。 www.facebook.com/LauderdaleCourts



おなじみ「ビールストリート」
この地で生まれたアメリカ音楽を体感

エルビスのロックンロールだけでなく、ブルースやソウルなど、アメリカ音楽の発祥の地として知られるメンフィス。ビールストリートはそんなメンフィスの音楽のメッカ。ライブハウスで生の音楽にぜひ耳を傾けたい。



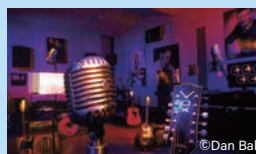
近くにある「メンフィス・ミュージック・ホール・オブ・フェイム」も必見。エルビスがアメリカ音楽に影響をどれほど与えたのか、多彩な展示で体験できる。

幼少時代を過ごした
ミシシッピ州ツペロ
「エルビス・バースプレース&博物館」

メンフィスから車で約2時間。プレスリー家が住んでいた小さな家は、一般公開されており、他にも博物館、エルビスが影響を受けたゴスペルに出会った教会など、ゆかりの地を巡ることができる。メンフィスからの1日ツアーを利用するのもおすすめだ。

1日ツアー詳細: www.graceland.com/day-trips

ほかにも訪ねたい
エルビスゆかりの場所



エルビスが最初にレコーディングした「サンスタジオ」。彼の当時の肉声を聞くことができる。



エルビスが1954年7月に最初のコンサートを開いたオーバートン・パークのアウトドアシアター。現在は「レビットシェル」として、夏には無料のコンサートシリーズが開かれる。



エルビスが常連として通っていたサウスメイン地区にある「アーケード・レストラン」。彼が決まって座るブース席は、世界のファンが必ず座りたい場所。



メンフィス市観光局 www.memphistravel.com/japanese

@MemphisJapan

@memphis.travel.jp

@memphistraveljp

ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾート 開園50周年開催中

「世界で一番マジカルなセレブレーション」 2023年3月まで

2021年10月に開園50周年を迎えたフロリダ ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾート。これを記念して、2023年3月まで「世界で一番マジカルなセレブレーション」を開催中。50周年を記念して続々と新しいアトラクションがオープンしているほか、目を見張るような様々なイベントが開催されている。また、カリフォルニア ディズニーランド・リゾートも含めて、アメリカのディズニーリゾートでは、キャラクターグリーティングやキャラクター・ダイニングも既に再開。エキサイティングで胸が躍るディズニー・マジックの世界が戻っている。

ディズニー・マジック満載の 50周年記念イベントが目白押し

ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートでは、開園50周年を記念したイベントとして、新たに「ディズニー・エンチャントメント」が始まった。「世界で一番マジカルなセレブレーション」の幕開けを飾り、マジックキングダム・パークのナイトタイム・エンターテインメントの歴史に新たな1ページを加えている。シンデレラ城からメインストリートUSAまで、ディズニー・ミュージック、華麗な花火、壮大な照明、リアリティあふれるプロジェクション効果によって、息を呑むような光景が作り出され、その中をゲストは人気キャラクターたちと一緒に魔法の国への旅に出かける。



マジックキングダム「ディズニー・エンチャントメント」

また、エプコットでは、ナイトタイム・スペクタキュラー「ハーモニアス」が開催されている。世界中のミュージシャン、作曲家、編曲家、ボーカリストなど約240名のアーティストがディズニーの人気曲15曲を新



エプコット「ハーモニアス」

たなアレンジを加えて表現。噴水やライト、レーザー、花火などの演出のもとで映像が展開し、ワールド・ショーケース・ラグーンの上空やその周辺で壮大なショーが披露される。

エプコットのフランス館も拡張され、新たに家族で楽しめる没入型アトラクション「レミーの美味しいレストラン・アドベンチャー」のほか、本格的なフランス料理やブルターニュ地方のガレットやシードルが楽しめる「ラクレブリー・ドゥ・パリ」もオープンした。



家族で楽しめる「レミーの美味しいレストラン・アドベンチャー」
©2022 Disney/Pixar

さらに、エプコットでは「ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー:コズミック・リワインド」もオープン。大ヒット映画『ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー』の壮大な世界観を再現したここにしかないスリリングなコースターアトラクションだ。



エプコット「ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー:コズミック・リワインド」
©2022 Disney ©2022 MARVEL

加えて、4つのテーマパークの象徴的な建物を彩る「ビーコン・オブ・マジック」も登場。マジックキングダム・パークの「シンデレラ城」、ディズニー・アニマルキングダムの「ツリー・オブ・ライフ」、ディズニー・ハリウッド・スタジオの「ハリウッド・タワー・ホテル」、エプコットの「スペースシップ・アース」は、それぞれマジカルな光のランドマークに変貌する。



4大テーマパーク「ビーコン・オブ・マジック」

マジックキングダムのタウンスクエア・シアターでは、50周年の特別衣装を纏ったミッキー、ミニーとペアでグリーティングすることもできるので要チェックだ。

このほか、50周年を記念して提供されるフード&ドリンクの新メニューは150種類以上。アパレル、アクセサリ、ぬいぐるみ、ホームウェア、記念品、コレクターズアイテムなどの50周年記念限定グッズ・コレクションも発売されており、セレブレーション気分を盛り上げている。



カリフォルニアでは 「アベンジャーズ・キャンパス」が オープン、 人気イベントもパワーアップ

一方、カリフォルニア ディズニーランド・リゾートもパワーアップ。ディズニー・カリフォルニア・アドベンチャー・パークには、新しいテーマランド「アベンジャーズ・キャンパス」がオープンした。革新的なテクノロジーによって可能になった没入感たっぷりのヒーロー体験ができる。ゲストは、ブラックパンサーやワカンダの精鋭が揃った親衛隊「ドーラ・ミラージュ」のトレーニングを受けたり、スーパーヒーローと遭遇したり、アベンジャーズが宿敵を相手に大逆転勝利を収めるスリルは、臨場感に溢れている。

また、同パークでは、世界最大級のウォーター・スクリーンに、ディズニーアニメや実写映画の名場面が映し出される夜のウォーターショー「ワールド・オブ・カラー」も開催中。ディズニーランド・パークでは、大人気のナイト・スペクタクルショー「ファンタズミック!」もより刺激的に生まれ変わって戻ってきた。



©2022 Disney ©2022 MARVEL



©2022 Disney ©2022 MARVEL

Walt Disney World
Resort in Florida



Disneyland
RESORT
IN CALIFORNIA



パーク入園プロセスが変更、チケット購入とともに予約が必要に

カリフォルニアのディズニーランド・リゾート、フロリダのウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートとも、昨年より入園予約プロセスが変更になっているので注意が必要だ。3歳以上のすべてゲストは当日有効なパークチケットに加えて、パーク入園予約の両方が必要となる。旅行代理店やオンライン等でパークチケットを購入前に、入園したい日程の空きがあるかを確認。その後、チケットを購入。チケットの予約番号を新規登録あるいはサインインしたディズニーアカウントにリンクさせる。パークホッパーチケットの場合、予約は最初に入るパークのみでOK。2つ目のパークへはカリフォルニアの場合は同日の13時以降、フロリダの場合は、同日の14時以降に入園することができる。

パークの空き状況は日々変動するため、旅行日程が決まり、必要な予約情報やチケット番号を入手したら、速やかにパーク入園予約を取得することが重要となる。

詳細な
プロセス動画は
こちらを参照▶



日本からアメリカへ、充実のネットワーク

JAPAN
AIRLINES

Network

北米各地へ運航 羽田からのフライトも拡充

アメリカン航空

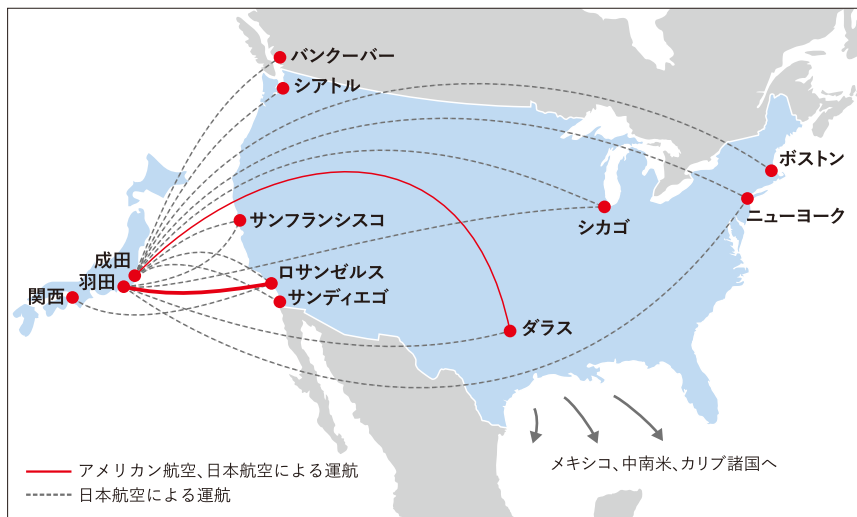
羽田便の運航再開、ロサンゼルスへ

アメリカン航空は、冬期スケジュールが始まる10月末より羽田ーロサンゼルス線の運航を再開する。今後、羽田のネットワークはさらに拡充する予定だ。

現地に最大限滞在可能な便利なスケジュール

他社にはない羽田午後発／ロサンゼルス早到着、ロサンゼルス深夜発／羽田早到着の便。このフライトを利用すれば、現地に最大限滞在が可能。さらに日本航空運航のフライトと組み合わせることで、ニーズに合ったより多彩なフライトコンビネーションを選択できる。

また、アメリカン航空のロサンゼルス以遠のネットワークと、羽田を発着する日本航空の国内線ネットワークを組み合わせることで、日本ー北米間の利便性の高いアクセスを提供する。



※2022年8月の運航情報に基づく

日本航空

羽田と成田、関西から全米各地へ運航

JAL北米線はデイリー運航の路線を拡大中。なかでも関西から北米へのアクセスはJALだけ。また国内線ネットワークで日本各地から北米へアクセスできる。

10月の運航状況(10月29日まで)

発着地	発着地	便名	運航曜日
シカゴ	羽田	JL010/JL009	週5便
	成田	JL8010/JL8009	週4便
ダラス	羽田	JL012/JL011	毎日
	成田	JL8012/JL8011	週4便
		JL7012(AA060)/J7011(AA061)	毎日
ボストン	成田	JL008/JL007	毎日
ニューヨーク	羽田	JL006/JL005	毎日
	成田	JL8006/JL8005	週4便
サンフランシスコ	羽田	JL002/JL001	週4便
	成田	JL058/JL057	毎日
ロサンゼルス	羽田	JL016/JL015	毎日
		JL8062/JL8061	週3便(ロサンゼルス発:週2便)
		JL7018(AA170)/JL7015(AA169)	毎日(10/31～)
	成田	JL062/JL61	毎日
	関西	JL060/JL69	週1便(ロサンゼルス発:週2便)
シアトル	成田	JL068/JL67	毎日
サンディエゴ	成田	JL066/JL65	週4便
バンクーバー	成田	JL018/JL017	毎日

※スケジュールは予告なしに変更になる場合があります。

Safety & Security

安全・安心な旅行をサポート「Sherpa」「VeriFLY」

アメリカン航空と日本航空では、安全・安心な旅行を提供するため、デジタルツールの活用を提案している。

渡航制限確認ツール「Sherpa」は、各国の渡航規制について最新情報を提供するサイト。旅程やワクチン接種有無、国籍などの条件を入力することで、渡航を予定している国の渡航制限や必要書類を確認できる便利なツールだ。

また、デジタル証明書アプリ「VeriFLY」は、日本出発時*に新型コ

ロナウイルスの陰性証明書やワクチン接種証明書など、事前に入国検疫書類をアプリに登録。搭乗手続きや現地到着後の検疫手続きがスムーズになるだけでなく、羽田空港と関西空港（日本航空）、成田空港（アメリカン航空、日本航空）には「VeriFLY」優先チェックインカウンターを設置。その利用メリットは大きい。

*日本政府の検疫ファストトラックがあるため、海外発日本行きは利用は不可。



日本語で検索可能「Sherpa」
joinsherpa.com



「VeriFLY」ダウンロード
go.daon.com/ja/veriflyapp

「VeriFLY」の利用／登録方法について（日本航空）www.jal.co.jp/jp/ja/inter/verify/（アメリカン航空）www.aa.com/i18n/travel-info/covid-19-testing.jsp?locale=ja_JP#verify

Sustainability

2050年までにCO₂排出量実質ゼロへ、両社のコミットメント

アメリカン航空

環境にやさしい新世代の機材を積極導入

アメリカン航空は、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを明確に宣言した最初の米国の航空会社。目標達成へ向け、より燃料効率に優れた新しい航空機やサステナブルな航空燃料(SAF)などに投資を行っている。

なかでも機材については、2013年以来、595機を新規導入し667機を退役、米系航空会社で一番新しい機材群を誇る。最新のエンジンと機体技術を採用した787ドリームライナーとA321neoなど、新世代の航空機はいずれも10～15%の燃料効率の向上を目指している。

またSAFについても業界最大の単



独調達契約を結ぶなど、積極的な動きを見せる。SAFは、従来のジェット燃料の性能と安全基準を満たしながら、温室効果ガスの排出を75%低く抑える効果が期待できる。

日本航空

未来の空のため2050年までに、CO₂排出量を限りなくゼロへ

日本航空は、「2050年までに、CO₂排出実質ゼロ」という国内のエアラインで初となる大胆な目標を掲げる。新しいテクノロジーや未来の燃料づくり、そして多くのパートナーや地域との協力によってCO₂排出量実質ゼロ実現を目指す。これからも豊かな地球を次世代へ引き継ぐため、CO₂の削減に取り組んでいく。

また同社は、サステナビリティをはじめ、サービス品質、安全・安心において総合的に評価され、APEX「WORLD CLASS」を受賞。世界では7社。日本では同社だけだ。





アメリカへのフライト。 選択肢が多いほうがいい

アメリカン航空と日本航空をご利用いただくと、アジアとアメリカ間のご旅行がよりいっそう便利です。

日本航空は、現在、日本発北米路線（シカゴ、ダラス・フォートワース、ボストン、ニューヨーク、サンフランシスコ、ロサンゼルス、シアトル、サンディエゴ、バンクーバー）を好評運航中。
アメリカン航空は、今年10月より、羽田発のロサンゼルス路線を再開します。
また、すべてのお客さまに安心してご旅行いただくために、
両社は徹底した清掃と消毒を行っております。

2社の強みを活かしたパートナーシップによる多彩なフライトオプションで、
北米はもちろん、その先の中南米へも、スムーズな旅をお楽しみください。

※上記は2022年8月1日現在の情報です。スケジュールは予告なく変更となる場合があります。
詳しくはウェブサイトをご覧ください。

aa.com

jal.co.jp

